

宮城ヘルシー 2005 ふるさとスポーツ祭登米管内大会



8月21日、東和総合運動公園を主会場に、宮城ヘルシー2005ふるさとスポーツ祭登米管内大会（宮城ヘルシーふるさとスポーツ祭実行委員会主催）が開催されました。大会は、地域スポーツの振興などを目的に平成元年から開催され、今回で17回目。ソフトボール、バレーボールなど、5種目の競技が行われました。

ソフトボールは 大袋区(南方町)が優勝

また、競技を通じて、各地域の交流が深められた大会となりました。各種目の結果は次のとおりです。

大会結果

【ソフトボール】

- 優勝 大袋区 (南方町)
- 準優勝 第4区 (石越町)
- 第3位 小川町区 (津山町)
- 第3位 米川第4区 (東和町)

【バレーボール(ビニール)】

- 優勝 荅下区 (南方町)
- 準優勝 浅水新田区 (中田町)
- 第3位 砥落区 (米山町)



【バレーボール(ゴム)】

- 第3位 仲町区 (豊里町)
- 優勝 東和町
- 準優勝 ママさんバレーバラ (津山町)

【ターゲットバードゴルフ】

- 第3位 石越町 (米山町)
- 第3位 十日町 (米山町)
- 優勝 西二ツ屋区 (豊里町)
- 準優勝 米川第6区 (東和町)
- 第3位 クリーンバード (追町)

【グラウンドゴルフ】

- 優勝 米谷第3区 (東和町)
- 準優勝 大網西区 (追町)
- 第3位 錦織第3区 (東和町)



現在、市では、迫町森字平柳地内に「消防防災センター（仮称）」の整備を進めています。従来の消防機能に加え、市民皆さんの防災に関する研修の場とするほか、ヘリポートなども備え、登米市の総合防災拠点としての役割を担います。今月号では、この施設の整備計画の概要をお知らせします。

消防防災センター（仮称）の整備を開始します。



消防防災センターのイメージ図

施設整備の概要

平成20年3月の完成を目指します

この事業は、老朽化の激しい現消防本部庁舎に替わって、大幅に機能が強化された、新たな防災拠点の整備を行うもので、平成5年度から協議を進めてきました。

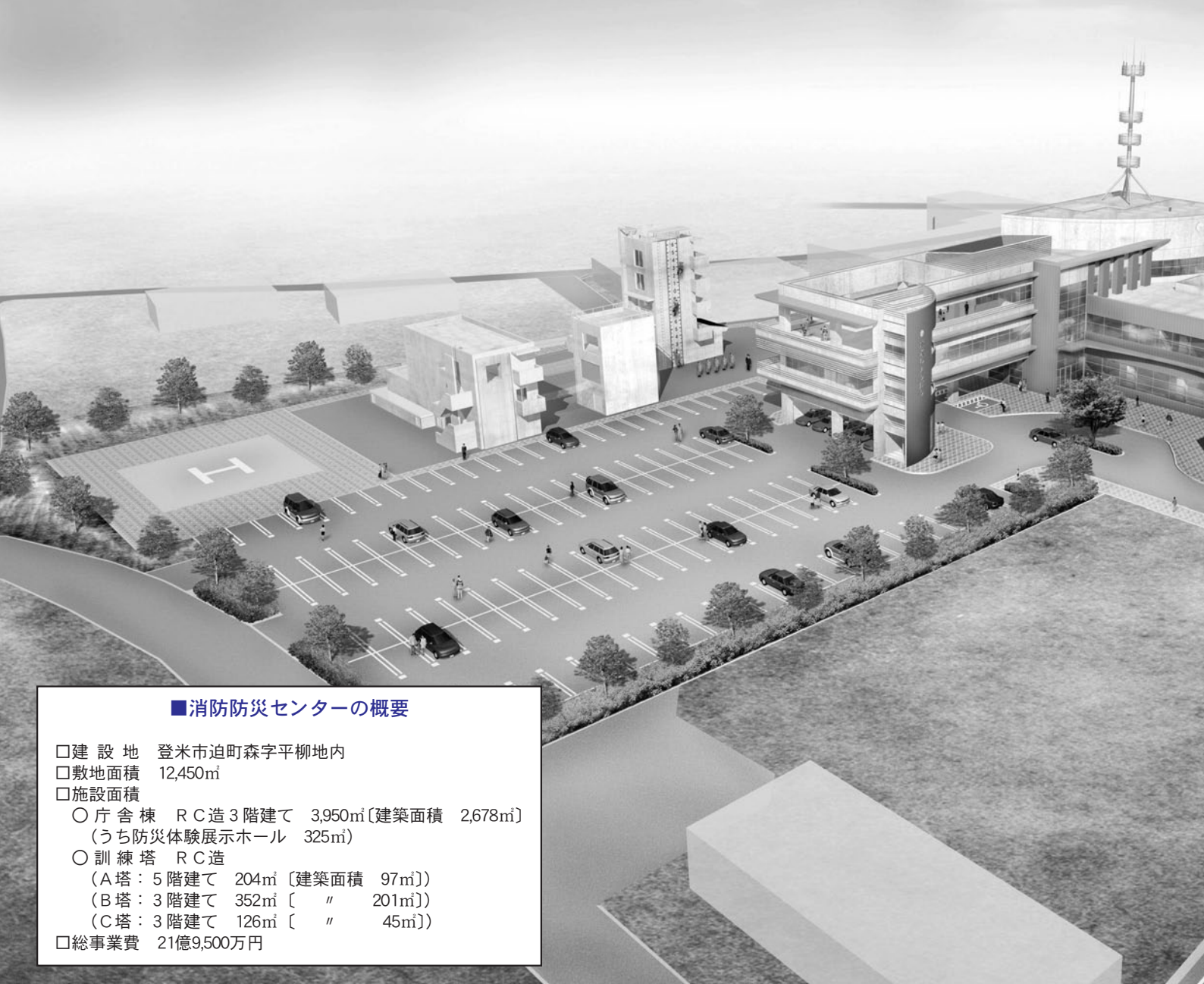
また、合併協議において、合併特例債を活用したプロジェクト事業の一つとして位置付け、市が計画を引き継ぎ

整備するものです。

施設は、従来の消防機能に加え、市民皆さんの防災に関する研修の場とするほか、ヘリポートなども備える総合防災拠点として整備します。

場所は、迫町森字平柳地内の旧佐沼家畜市場跡地と周辺一帯の市有地で、面積は12,450平方メートル。用地取得、用地測量、既存建築物の解体などはすでに完了しています。

今年度中に実施設計を終了させ、平成18、19年度の2カ年で建設工事をし、平成20年



■消防防災センターの概要

- 建設地 登米市迫町森字平柳地内
- 敷地面積 12,450㎡
- 施設面積
 - 庁舎棟 R C造3階建て 3,950㎡〔建築面積 2,678㎡〕
(うち防災体験展示ホール 325㎡)
 - 訓練塔 R C造
 - (A塔: 5階建て 204㎡〔建築面積 97㎡〕)
 - (B塔: 3階建て 352㎡〔 " 201㎡〕)
 - (C塔: 3階建て 126㎡〔 " 45㎡〕)
- 総事業費 21億9,500万円

3月の完成、4月の業務開始を目指しています。

施設整備の基本構想

防災拠点として安全性の高い施設

建物は、市内では初めての免震構造〔※〕で、高い安全性を有しています。大規模災害時の防災拠点として中心的役割が期待されます。

災害応急対策用の機材はもちろん、防災備蓄倉庫には、非常用食料、飲料水、毛布などを備蓄するように計画しています。

また、敷地内にヘリポートを整備し、救急患者の搬送、林野火災時の消火器材の搬送基地などとして活用します。

〔※免震構造〕

大地震時でも建物の揺れを吸収する構造。建物の損傷、収容物の転倒落下による被害を少なくできます。

防災啓発『観て知る』施設

消防防災センターの1、2階は防災体験・展示ホール、3階には訓練風景が一望できる見学テラスがあり、防災教

育の場となるように計画しています。

また、敷地内には防災広場として散策路、築山を設け、市民皆さんが消防訓練の様子を見学できるように計画しています。

緊急時の出動に配慮した施設

庁舎内のレイアウトは、スムーズに出動できるよう設計されており、緊急出動時に対応します。

また、24時間体制の特殊性を考慮し、職員の執務環境、生活環境にも配慮しています。

災害時に対応するネットワーク

迅速・的確な対応のため、高機能消防指令センターを整備し、119番通報の受信から、災害地点の確認・出動までの対応時間を短縮します。

また、消防防災情報ネットワークにより、市との災害情報、被害情報の共有化、一元化を目指します。

